

平成22年度 府立東百舌鳥高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

「未来へ翔ける」をキャッチフレーズとして、自分の進路を自己決定できる力を身につけるとともに、社会の形成者としての責任を自覚した自律的な人間を育成する。具体的には、自分の言葉で自分の考えを表明できる生徒の育成を図る。そのため、きめ細やかな生徒指導と進路指導に努め、生徒が校訓である「**「自他敬愛」**の心と市民としての自覚を持ち、自分の人生を拓く力を伸ばす学校づくりをめざす。

2 本年度の教育目標

- 1) 第一希望の進路実現
 ① 魅力ある授業づくり ② きめ細やかな生徒指導と進路指導
 2) 学校行事・部活動の活性化 3) 開かれた学校づくり 4) 信頼される学校づくり
 5) 道徳教育の推進

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年5月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<p>①新教育課程の構築 ・専門コース設置の研究と推進 ②選択科目授業の実施 ・「総合情報」「環境科学」の開講 ・OCIの少人数展開授業の充実・英語 (ALT) と情報AのTT授業の実施 ・理系進学向け「数学B」選択の実施 ③授業評価の実施 ④図書室利用者数増加と読書活動の推進 ・読書タイムなど読書活動推進 ・大型テレビの活用 ・HPなどを通じた図書室利用の周知 ⑤国際理解教育推進 ・オーストラリア語学研修実施</p>	<p>① 平成24年度「専門コース」導入に向け、コース制委員会を設置、専門コースの内容、教育課程検討を始めた。 ② 左記の項目については実現。「環境科学」は、希望者が少なく来年度は不開講。生徒の進路の多様化に対応するため来年度より「ピアノ実習」「看護入門」「カウンセリング入門」の3科目を新たに開講。 ③ 「生徒による授業評価」を実施。結果を教員が閲覧。 ④ 1・2年で年間を通し読書タイムを行った。7～耐震工事で閉鎖したが、貸し出し冊数は2316→2432冊となっている。図書館の大型テレビを利用した授業が増加(23回→32回)。HPの更新は4回。 ⑤堺東高校との共同実施。参加数4名。異文化を体験し視野が広がった。</p>	<p>① 「専門コース」の導入 平成24年度先行実施のカリキュラム作成 ② 新設置科目の来年度以降の継続的な開講。 ③ 授業評価の内容をふまえて各自が授業改善に取り組む。各教科で授業見学などの取り組みにつなぐ。 ④ 国語科の協力を得て、読書タイムを全学年で取り組むようにする。授業での図書館の活用を増やす。 ⑤ 準備を開始。行き先は同じ。内容充実を目指す。</p>
(2) 生徒指導等	<p>生徒指導 ①教職員常駐体制。日常的な生徒指導の展開。 ②遅刻指導の拡充。立ち番、遅刻常習者への学年指導。 ③昼の巡回指導と立ち番。 ④携帯電話のマナー指導、啓発と預かり指導の実施。 ⑤「あいさつ」と「掃除」の指導。 ⑥学年集会等の静粛な態度を涵養する。</p> <p>進路指導 ①進路指導室の活用 ②進路体験行事の事前事後の指導の充実 ③「進路講演会」の実施 ④「子育てサポートルーム」との連携 ⑤進学講習の活性化 ⑥実力テストの適正化 ⑦PTA主催校外模試の充実 ⑧保護者に対する進学資金計画の依頼・説明会の実施 ⑨ハローワークとの連携・協力関係の強化 ⑩専門業者によるマナー講座・面接講座の充実 ⑪就職問題集を用いた指導の実施</p> <p>教育相談 ①教育相談の重要性の周知徹底。教員の研修参加と相談能力の向上。 ②教育相談機能の充実。SCSVとの連携促進。 ③担任、保護者への援助。専門家への紹介の仲立ち。 ④教育相談室および常駐教員の指導態勢の整備。 ⑤月2回以上の教育相談委員会の開催。情報の共有。 ⑥保健室との連携。 ⑦生徒、教員向けの「相談室だより」の発行。</p> <p>特別活動 ① 学校祭(体育の部、文化の部)の充実 ② 部活動の活性化 ③リーダーズ・アセンブリーの実施 ④学校図書館の利用及び読書指導の充実 ⑤主体的に計画、行動する力を養う修学旅行の実施 ⑥人権学習(沖縄戦、途上国援助の平和学習)の実施。 ⑦人権アンケートの実施といじめの実態調査を行う。</p>	<p>生徒指導 ①教職員常駐体制。日常的な生徒指導の展開を実践した。 ②遅刻指導の拡充及び、通学路の立ち番の実践、遅刻常習者への指導の徹底を図った。 ③巡回指導、立ち番の継続で無断早退・喫煙などの防止に効果があった。 ④マナー指導、啓発、預かり指導の実施及び保護者への協力依頼ができた。 ⑤「あいさつ」「掃除」の指導及び「頭髮」・「服装」指導の徹底が図れた。 ⑥全校集会・学年集会等を実施。学校で起っている事柄について情報の共有化と静粛な態度の涵養が計れた。</p> <p>進路指導 ① 学年団の教員に昼休み・放課後に入ってもらい、相談・指導に当たることができた。 ② 2年生行事で、十分な指導時間がとれなかった。 ③ 1年生で年2回実施。講師の力量に負うところが多いが効果はあった。 ④ 3年の進路決定後も活動に参加するなど、よい影響が得られた。 ⑤⑥⑦ 受講者・受験者が増加。1年生に使用した実力テストは適性検査や進路アンケートを兼ね、事後指導も充実。 ⑨⑩⑪専門家の指導は効果があった。問題集を持たせ模擬試験を行い、意識を向上させた。</p> <p>教育相談 ①□ 学習障害や精神的に困難を抱える生徒は増加。全教員がチームで取り組むことの重要性を認識。教職員研修も教育相談の視点で実施し、共感を得た。堺・泉北地区生徒指導研究会教育相談部研修会で、本校の事例報告をした。後期には、ピア・サポート研修報告とワークを紹介。他校にも取り組みを進めた。 ②③ SCSVと信頼関係があり面談日は満杯で連携がとれている。面談後は、担任、養護教諭、教育相談担当でコンサルテーションを実施、チームで本人と保護者を支えていく体制づくりができています。専門医へつなげることも成功。 ④教育相談室の整備は進んでおり、生徒にも、教員にも過ごしやすい空間を作ることができている。昼休み・放課後は相談係が担当し開いている。昼休みは常に利用する生徒がおり、授業に出にくい生徒の過ごす場所として利用されている。 ⑤今年度は時間割の中に教育相談の会議を入れてもらえた。隔週に開き、学年と保健室での様子を情報交換している。 ⑥保健室の情報は毎日確認し、保健室からの要請で、相談活動に入ることもある。 ⑦生徒向けの相談室便りを発行。相談活動の啓発を行った。</p> <p>特別活動 ① 「体育の部プレ開会式」「文化の部開会式」を生徒主体で運営し成功。 ② 「睦月祭」を生徒会主催で行い、全校生徒の4分の1が参加。 ③ クラブリーダーの部活動への意識が高まる。1年生のクラブ加入率が57%となる。 ④ 図書館の本を利用。詩の朗読の授業を行った。 ⑤ 生徒修学旅行委員が動き、主体的に行動する修学旅行を実施できた。 ⑥ 2つの取り組み(平和学習とJAICA)を進めた。積極的に参加した。 ⑦ 人権アンケートを3学期に全学年で実施。分析した。</p>	<p>生徒指導 ①常駐体制維持、問題発生時の即対応を心がける。 ②遅刻の減少、立ち番指導について学年の協力でより強く推進していく。 ③巡回による盗難の減少、問題行動の早期発見を計る。 ④携帯については従来の私道を継続しながら保護者の協力を強める。 ⑤学校生活の基本マナーに目を向けさせ、あいさつの声の絶えない学校を目指す。 ⑥集会については、役割を明確にし、教員全体で担う意識を作る。</p> <p>進路指導 ①②④⑧～⑩ は来年度もその方向ですずめる。 ③1年に限らず、可能な限り実施する。 ⑤⑥⑦実力テストの日程を工夫し、事前学習教材での指導を充実させ、テストへの目的意識をもたせる。 3年生対象模試を1学期から実施。年間3回に、1・2年生対象模試も年2回で定着させたい。夏期講習の教室として、3年学年の協力の下、外部会場も考える。その他、卒業生からの情報収集に力を入れたい。郵送その他の手段で、進学先・勤務先の実態を報告してもらい、教員・生徒に報告、適切な指導につなげたい。</p> <p>教育相談 ① 今年度から始めたピア・サポート研修は継続し、更に生徒がピアの実践を行っていきけるような方向で進めていく。この研修にも多くの教員が主体的に取り組んでいける体制づくりをしていく。 ② 来年度から変わるSCSV制度を最大限に活用し、今以上に丁寧な相談活動を実施していく。 ③～⑥ 各、今年度の実践を活かし体制を維持するとともに、教員の相談力を高める。 ⑦ 教員向けにも「相談室便り」などを発行し、教育相談活動の啓発を進めていく。</p> <p>特別活動 ①□ 計画から運営まで生徒主体の行事にする。 ② 部員を増やす。 ③ 引き続き「リーダー研修」を行う。「学級代表」対象のピアサポート研修を継続。 ④ 図書館の本を使った調べ学習を推進。 ⑤ 実施した成果をふまえて特色のある取り組みを展開。 ⑥ 内容を検討、より完成されたものにする。 ⑦いじめの実態を把握し、人権教育委員会を中心に校内研修や、いじめの撲滅に向けて対策を進める。</p>
(3) 学校運営等	<p>① HP、メールマガジン、学校説明会等による情報発信委員会を中心とした積極的な情報発信 ② 地域住民や小中学生対象の土曜講習の開講。文化、芸術の発信源として活動 ③学校評価を活用したPDCAサイクルの実施</p>	<p>① HP、メールマガジンを随時更新し、アクセス数も増加、保護者の反応も大きい。 ② 年5回の写真講習やビデオ編集講習、ロボット講習会を実施。地域へ働きかけた。また、広報誌への掲載(ロボット)も行った。写真講習の作品および写真家長島義明氏の写真展を校内実施し、好評であった(地域の参加者約30名)。 ③ 各分掌、学年が、保護者や生徒の学校評価を参考に改善策を検討中。</p>	<p>①この2本柱が本校生の姿を伝える最良の方法である。 ②写真講習会は内容を充実させ5月から。ビデオ編集講習会も複数回実施。 ③PDCAサイクルは最低でも2回は回し、取り組みの速度を上げる。</p>

4 学校教育自己診断における結果と分析 [平成22年11月 実施分]

*実施対象(教職員・児童・生徒・保護者)

- ・10月末配布、11月に回収。回収率は生徒95%、保護者35%、教職員91%。全体的に評価は向上している。特に進学に向けてのカリキュラム、学校HPの閲覧、学校施設の充実等があげられる。
- ・全ての結果について、課題については分掌、学年ごとに検討した。全生徒と保護者に結果と分析、今後の対策を文書にし、2月初旬に配布した。
- ・授業の満足度は高いと言えるが、より分かる、より充実した授業を目指すため、授業の評価を元にした教科指導力を高めるための授業見学、公開授業を行うことが必要と考えられる。
- ・規則が厳しいという結果もあるが、落ち着いた教育環境の提供のために、現在の安心安全な学校の基礎マナーや規律を守ることが大切であるという認識を、より強く生徒に訴えていくことが必要である。
- ・生徒が第一希望の進路を目指すという観点を堅持し、進路指導を一層充実させ、進路情報の精選と生徒にとって満足度の高い進路獲得を目指したい。
- ・相談室は年々充実しているが、これまで以上に生徒と真摯にかかわり、最終的には生徒が自分自身で考え、決定し、行動できるようになることが重要と考える。

5 学校協議会における提言内容

*実施日 第1回(7月8日)第2回(12月22日)第3回(3月3日)

*委員 小川雅和(東光学園事務長)、春山芳則(PTA会長)、葛城信一(同窓会会長)、加藤正彦(あすと市民大学学長)、黒川正三(東百舌鳥中学校校長)、山東功(府大准教授)、藤木敏明(自治会長)、森山昌子(NPO法人代表)本校校長以下11名

提言内容:・中学生の保護者の側は高校選択の資料としてHPを活用している。進路面でより詳細なデータが欲しい。

- ・メルマガは活用され、保護者が学校生活を知る上でも有意義。さらなる充実を計って欲しい。
- ・魅力ある学校作りには授業改善は不可欠。シビアな意見も浮かび上がる。丁寧な授業を行う東百舌鳥高校という評判は非常に大切と考える。
- ・日常的に住民とふれあって欲しい。清掃活動は複数回実施して欲しい。自転車通学指導も同様。
- ・授業料の無償化が生徒の確保に影響するだろう。学校をあげた取り組みを。近隣中学や大量入学者の出身中学との連携を強めていくことが重要。
- ・「いじめ」についての研修及び対応マニュアルを作成する。常にアンテナを張り巡らせて欲しい。
- ・地域、卒業生、保護者から、必要と思われる学校作りとその人達との連携を強めて欲しい。